








## ◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<8月> 業界の景況(前月比DI値)

晴れ間は無く雨広がり、全体の景況は依然として厳しい状況である。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 30以上  | 10~30未満   | 10未満<br>~△10  | △10超~<br>△30未満  | △30以下   |
|  |  |  |  |  |

| 業種   |   | 業界の景況(前月比DI値)  |  |  |  |
|------|---|--|--|--|--|
|      |   | 令和元年5月   | 令和元年6月   | 令和元年7月   | 令和元年8月   |
| 製造業  | 食料品製造業  |  0      |  △ 40   |  0      |  △ 50   |
|      | 木材・木製品製造業   |  0      |  0      |  0      |  0      |
|      | 印刷・出版<br>同関連製造業   |  0     |  0     |  0     |  △ 100 |
|      | 窯業・土石製品<br>同製造業   |  △ 33 |  0    |  0    |  △ 33 |
|      | 鉄鋼・金属<br>同製造業   |  △ 50 |  △ 33 |  △ 67 |  △ 33 |
| 非製造業 | 卸売業   |  △ 20 |  △ 20 |  △ 40 |  0    |
|      | 小売業   |  △ 33 |  △ 50 |  △ 50 |  △ 33 |
|      | 商店街   |  △ 33 |  △ 33 |  △ 33 |  △ 33 |
|      | サービス業   |  0    |  △ 17 |  △ 14 |  △ 17 |
|      | 建設業   |  △ 17 |  △ 17 |  △ 17 |  △ 17 |
|      | 運輸業   |  0    |  △ 50 |  △ 33 |  △ 33 |
| その他  |  0 |  0    |  0  |  0    |  |

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

| 2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) |  |
|---|--|
| 味噌醤油業界                                      | <p>8月は暑い夏であった。先月は例年より寒く製品の動きが良かったが、ここにきて売上が低下した。暑い夏こそみそ汁からの塩分補給が、熱中症対策と健康対策には一番の近道であるのだがなかなか浸透しない。更に今見直されているのが冷や汁である。キュウリ・豆腐・なすなどの多くの具材にだし汁と味噌をご飯に混ぜ、冷たくして食べるという昔ながらの食べ方で、夏場は簡単で体に優しい食事である。これからの秋は、仙台味噌を使いたいも煮を食べて頂きたい。</p>  |
| 製パン業界                                       | <p>総務省の家計調査から都道府県庁所在市の平成30年度1年間の1世帯当たりのパンへの支出額を見ると、トップが大阪で4万6,118円、東京が4万3,718円、神戸が4万3,397円と続く。全国的には北と南は支出金額が低めで中央に近づくとも高くなる傾向が見える。北海道・東北エリアは全国水準から見ると低めであるが仙台市は3万2,129円で前年比101.8%となった。僅かであるが伸びているのは業界の努力によるものと考えたい。</p> <p>そのような中、10月には消費税増税があり、パン業界は標準税率と軽減税率を使い分ける必要がある。売上を伸ばすためにイートインスペースを設けたパン店は多く、10月以降、税率の高い店内喫食が敬遠される可能性があり、動向を注視していかななくてはならない。</p> |
| 水産練製品業界                                     | <p>コストは上がる一方で下がる要素が無い中、10月からの消費税増税を商品価格に値上げできないため、資金繰りが厳しくなる。また、パート、アルバイトの厚生年金加入が実施されれば、中小企業はやっていけなくなり、大量廃業時代へと突入すると思われる。</p>  |
| 酒造業界  | <p>月間出荷の対前年比割れが一年程度続いてきたが、久しぶりに前年を上回った。これまでの停滞原因も持ち直しの原因もわからない。</p>  |
| 製麺業界  | <p>7月の減少分の反動と好天のために売上げが昨年に対して良くなったが、全体には厳しい状況である。</p>  |
| 木材業界  | <p>県内の7月の住宅着工数は1,602戸で、前月比6%増加、前年同月比5%増加であった。持ち家は、2月以来、右肩上がり増加していたものが6月に減少に転じ7月も減少し、駆け込み需要の終わりが感じられる。貸家は全国的には減り続けている中で、県内ではまだ増加している。</p> <p>原木は荷動き、価格とも芳しくない。値下がり傾向が止まらず、もう暫くは続く見込みである。製品に動きはあるが価格は相変わらず横ばいとなった。合板は7月の全国の生産・出荷量が過去最高となるなど、丸太入荷や製品需要が順調でフル生産が続く。地場工務店向けの業者は需要の冷え込みと先行きに危機感が強い。</p>  |

|            |   |
|------------|---|
| 生コンクリート業界  | <p>8月の生コンクリート出荷量は、前月より24.0%減少し、全地域で減少した。前年同月比では、18.8%の増加で、昨年、気仙沼、石巻地区では復興関連、仙台地区では民需、大崎地区は前年同月が少なかったため増加した。県南は横ばい、県北は官民需ともに少なく減少した。</p>   |
| コンクリート製品業界 | <p>組合員の7月の出荷量は、前年同月比71%、前月比95%であった。4月からの累計は、前年比75%と減少した。在庫量は増加傾向であり、今後の生産調整、在庫管理も重要な時期である。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です)</p>   |
| 機械金属業界 A   | <p>前月比、前年同月比とも売上高が停滞、減少傾向にある。</p>   |
| 機械金属業界 B   | <p>アメリカと中国の貿易摩擦による影響や円高傾向によって、製造業関連については売上・収益ともに減少傾向にあり厳しい状況が続いている。</p>   |
| 再生資源業界     | <p>8月の鉄スクラップ市況は、5月、6月の下落と7月の底打ち状態から、反転し値上がりとなった。</p> <p>需要側は電炉メーカーの夏季減産に伴う鉄スクラップ購入減、また供給側では全国的な猛暑とお盆シーズンの回収減が相まって荷動きは低調に推移したが、建設用鋼材市況も陰りが伝えられる中で、電炉メーカーの減産基調は当面続くと予想され、鉄スクラップに対する需要の回復も大きな値上がりは望めない状態である。</p> <p>海外事情も、アジア向け日本産鉄スクラップの輸出成約は円高も影響して盛り上がりを欠く状況となっている。</p> <p>古紙は春先からの中国向け輸出量枠の制限が継続しており、長期でジリジリと価格の低下が止まらない状況で、ダンボール、雑誌、新聞の三品は、大都市圏内でリサイクルシステム全体の崩壊も懸念される状況である。</p> |
| 繊維業界       | <p>秋物の立ち上がりが早く、盆明けから動き出し、クールビズ商品も一段落している。10月からの消費増税に向けて準備が始まる一方で、廃業する店舗が続いている。</p>  |
| ゴム製品卸売業界   | <p>8月に入り夏季休暇などで稼働日数が少ない中、例年よりは引き合い、問合せ等が多く結果売上は例年より増加した。</p> <p>9月に入り消費税関係での駆け込みがあるのか、多少期待している。</p>   |
| 鮮魚卸売業界     | <p>8月は例年より早くメバチマグロの水揚げがあり、来場者の増加と相まって賑わいをみせた。店舗によっては、5月の連休を超える売上を記録している。</p>  |
| 鮮魚小売業界     | <p>盆休が長く、また高温の日が続いたため売上が落ちた。</p>  |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>生サンマは、今年是不漁の予想がある。海水温が高すぎて、不漁気味であった。</p>   |
| 青果小売業界 | <p>日本全土を襲った連日の猛暑や大雨、台風は青果物全般の成育に大きな影響を及ぼし、品質低下や腐敗が多く、価格も夏場では例年にない値段で大変な一ヶ月であった。</p> <p>大型野菜、葉物野菜も例年の2倍以上で、果実もお盆の必需品である桃、梨、ぶどう類も入荷量が少ないだけでなく品質低下もあり、店頭販売や納品業務でもクレームが多い月となった。在庫を持つだけの入荷量もなく、お盆商戦は期待外れで売上や収益共に厳しい一ヶ月であった。</p>  |
| 家電小売業界 | <p>8月に入り遅い梅雨明け後の3連休は、各地で猛暑による影響の為エアコンや扇風機などが続伸。また、家電メーカー各社は、国内家電市場で付加価値の高い製品開発に力を入れている。ここ1年で白物家電の大型製品で急速にIoTやAIを搭載する機種が増えている。センシング技術をはじめIoTを支える通信技術やAI技術の進化により、今後さらにつながる家電の普及は拡大していきそうだ。</p>  |
| 石油小売業界 | <p>原油相場は、米中貿易摩擦による世界経済の後退で需要が鈍化するとの懸念を背景に、来週も小幅に値下がりすると予想される。</p>   |
| 花卉小売業界 | <p>当月の売上については、前年同月対比で88.8%と前年を大きく下回った。8月の大きなイベントであるお盆は、例年並みの市場での取引量であったが、相場が安いことにより売上高として低調な結果となった。</p> <p>一般小売店での店頭販売も活気が見られず、全体としてお盆に伴う売上のメリハリが見られない月となった。背景には一般消費者の購買意欲の低迷があると思われる。</p> <p>なお、お盆期間に掛かり仕入先である花卉市場が8月13日から18日まで、6日間の休業だったことも間接的に影響があったものと思われる。また、10月の消費増税についても売上への影響を注視している。</p> |
| 商店街    | <p>(仙台地区A商店街)</p> <p>労働力不足が課題となっており、今後の消費増税の影響も懸念している。</p> <p>(仙台地区B商店街)</p> <p>8月は仙台七夕まつり期間中のみ飲食だけは何とか売上も確保できた。月間では夏物衣料が不振のまま月末には早くも秋物バーゲンが始まるなど、消費者からの反応としては、消費増税も目前に控えており、戸惑っている声が聞かれた。</p>  |

|          |   |
|----------|---|
|          | <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>8月の商況について、恒例の古川まつりが3日、4日の2日間にわたって開催されたが、土曜日、日曜日にかかったにもかかわらず、人出は昨年よりも少なかったようだ。お祭り期間中の本来の店売りは、例によって芳しいものではないが、歩道に出店した飲食関連の店についても、聞き取り調査によれば今年の売り上げは厳しいものであった。この事は、当該地域の中心商店街全体としての求心力、吸引力が著しく低下していることの証左だと思われる。大崎市の人口はこの8月で13万人を切り、少子高齢化、人口減少も事ここに極まったとの感がある。すでに地方自治法第8条で謳うまちづくりの基本からの乖離は著しいものがある。中小企業団体中央会などは国県市など監督官庁に対して、法律の改正も含む、今後のまちづくりの在り方について、新たな提言をすべき時期に来ていると思う。</p> |
| 自動車整備業界  | <p>持込車検台数はほぼ昨年並み。新車販売は全体で+6.7%と好調で普通車(登録車)+4%、軽自動車+11.5%。軽自動車は新型車や特別仕様のテコ入れが効いており、性能、装備など普通車と遜色なく売れている。10月に迫った消費税増税の駆け込み需要は、登録の関係で、今買っても納車が間に合わない事などで、前回の増税時に比べて影響は少ない。あおり運転事件を受け、ドライブレコーダー需要が再燃し販売や取付希望が急増している。特に前後2カメラタイプと360度タイプが多い。</p>   |
| ソフトウェア業界 | <p>最近では定型業務を代行してくれる仕組み「ロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)」の記事や導入事例が多く見受けられる。上手く活用できれば省力化も進み、話題の「働き方改革」にも貢献できるツールである。ただ、導入時の判断基準としては、RPA化可能な“同一定型業務のボリューム”がどのくらいあるかと言う事が分かれ目になり、中小企業では二の足を踏む部分である。また、比較的導入しやすいシステムではあるが安易に導入した場合のリスクとして、メンテナンス時や障害時に作成者が対応出来なくなった場合、手順や内容がブラックボックス化する事があり、万が一のシステム停止時に「手作業に戻れるか」も大事な指標である。</p>  |
| 警備業界     | <p>今年4月からスタートした「働き方改革」の実施に伴い、災害発生時に行う交通誘導警備や、大規模なシステム障害が発生した場合の機械警備対応の警備員の勤務時間の大幅延長が予想される。労働基準法第33条による「労働時間延長の対象になる」業務かどうかの問題について、厚生労働省の通達により示された基準のもとに対象となるとの見解が示された。</p> <p>今後30年以内に8割の確率で発生すると予想される東海・東南海沖の大規模災害への備えが一つクリアされた感がある。今後、各地で発生が予想される風水害等の自然災害への対応は待ったなしである。</p>  |

|          |   |
|----------|---|
| 湾岸旅客業界   | <p>8月は、年間の月別では、旅客数・売上で最多の月である。しかし前年以上に、曇天雨天の日が続き、七夕後半からは、晴れの日がほとんどなく15・16日には台風も襲来、松島海の盆の花火大会が中止となるなど天候不順の日が続き、旅客数・売上とも前年同月比で減少した。</p>   |
| シーリング業界  | <p>景況については、全体的にみると工事量は前年、前月と同程度の量で推移している。しかし、事業所間でのバラつきが当月も多くみられる。今後の予測としては、9月以降に相当量の工事が控えている模様であるが、先が見えている事業所、そうでない事業所とやはりこちらも事業所間でのバラつきがある模様。まず年末にかけてピークを迎え、さらに年度末のピークに集中し、人員不足が非常に懸念される。収益状況については働き方改革の影響か、他産業に見劣りしない労働環境を確保するため、以前よりも労働時間は減る状況の中、生産性を上げなければならず、労務費を時間外や休日出勤などで対応せざるを得なく限りある現場予算の中、費用がかさむ傾向である。休日を増やしライフワークバランスを整えることと同時に、組合員企業も賃金確保のため、適正単価の交渉も非常に重要となっている。</p> |
| 建設業界     | <p>復興事業も総仕上げの段階に入り、残り1年半程度となり、より効率の悪い手間のかかる工事が残っており施工面では様々な創意工夫等の実践が求められている。また、防災・減災・国土強靱化の3ヶ年緊急対策による来年度までの別枠での予算も確保されている。一方で、復興事業が来年度完了し、別枠での緊急対策予算がなくなることに大きな危機感を抱いており、令和3年度以降の社会資本整備予算の安定的な確保が望まれる。</p>  |
| 硝子業界     | <p>例年のお盆休みと違い、長期間で連休前の仕事量にも落ち着きが見られる。8月までの売上は、昨年と比べると高い月もあれば低い月もあり、全体としては低調となっている。また、夏の暑さで網戸の張替え等の需要もいまひとつの状況である。</p>   |
| 板金業界     | <p>8月の景況については、毎年のことだがお盆休みなどで活動日数が少ない月であった。</p>  |
| タクシー業界   | <p>実車率は前月と変わらないが、輸送収入は若干減少している。<br/>LPG 価格に変動はなかった。</p>   |
| 軽自動車運送業界 | <p>今年に入って引っ越し作業が夏になってもコンスタントに続いている。数年前から発生している引っ越しの価格問題などが影響して分散していると思われる。</p>  |
| 倉庫業界     | <p>前月比の売上高は、若干増加している。品目別では、入庫・出庫量</p>   |

|       |   |
|-------|---|
|       | <p>は、肥料等の化学工業品が増加しているが、他の品目は全体的に減少傾向にある。</p> <p>前年同月比の売上高は、荷役料等が増え若干増加している。品目別では、在庫・在庫量は、農産物・化学工業品・ゴム製品で増加がみられるが、他の品目では全般的に減少傾向にある。</p> |
| 不動産業界 | <p>賃貸物件については、転勤需要で空室が減ってきているが、依然として単身向けの物件の空室が目立つ。</p>  |